

40歳からの

生き方ファイル

赤い実企画代表

飯塚優子さん(58歳)



自分に向いている仕事ってなんだろう？ どんな仕事を選べばいいんだろう？ 働きたいけれど今一歩が踏み出せない読者に、30代後半で独立し、現在もフリーランスで演劇や音楽などのアートや地域文化に関わる活動を行っている女性を紹介합니다。

所有するスタジオの運営から、芸術文化事業・ワークショップなどの企画、演劇やアートなどに関するコラム執筆、大学の非常勤講師など、幅広く活躍している飯塚優子さん。これまでも、4丁目プラザ7階にあった4プラホールイベント担当や、古い倉庫を利用したユニークなフリースペース「駅裏8号倉庫」の運営委員、北海道演劇財団設立期成会の事務局を務めたほか、札幌の演劇についての著作もあり、札幌の舞台芸術を語るときには欠かせないキーマンだ。

新卒での志望は放送業界 願いかなわず進路を変更

中学時代は放送部に、高校・大学時代はオーケストラ部に所属。就職活動ではトークやナレーションの仕事を目指したがかなわず、専攻していた文学の研究生として1年間大学に通った。しかし、どうしても放送業界に入りたかった飯塚さんは大学を辞め、ラジオ局

でアシスタントディレクターのアルバイトをすることにした。

文章を書くことが好きだったことからスク립ト(放送台本)制作の仕事も入るようになったが、アルバイトは1年間の期間限定。「これまで書いたスク립トを持って、次の仕事を探しました」。そして、採用されたのが広告代理店のコピーライターのアルバイト。それから約4年間、職場を変えながら広告業界で経験を積んだ後に

独立。ほどなく知人から声が掛かり、4丁目プラザの管理会社に迎えられ、企画宣伝部長として働くことになった。
そこで知り合ったのが、市内で活動しているさまざまな劇団だった。「当時はアングラ演劇が盛り上がり、4プラで上演したという劇団がいっぱい集まってきたんです」。「4プラホール」のイベント担当者として演劇に触れるうちに、そのおもしろさに引き寄せられていった。劇団関係者に誘われてフリースペース「駅裏8号倉庫」の運営委員となり、仕事を離れたところでも演劇などの舞台芸術に関わっていった。

出会った人とのつながりが財産。
そこからおもしろい
アイデアやパワーが生まれ、
仕事につながったりするんです

れ、飯塚さんの頭の中の引き出しはほとんど充実していった。「人とのつながりが財産」と飯塚さんは言い切る。

長く続けていけるように 経営的な安定にも目を

劇場やコンサート会場、ギャラリーなど多様に使われている「レッドベリースタジオ」には、さまざまな人たちが集う。近所に住むシニア男性がつづった琴似八軒の歴史物語と、長年の友人だった演出家とを飯塚さんがつなぎ、一昨年にオリジナル演劇「百理渡来記すえ語り」が誕生した。昨春にピアノを設置してからは音楽関係のネットワークもできた。

より好きなほうを選ぼうと に見えてきた「やりたこと」

現在に至る演劇とのつながりの始まりは4プラ時代だが、「今の仕事の土台となっているのは4プラに入るまでの職歴のほう」と飯塚さんは語る。放送で話す仕事に興味があったものの、就きたい職業の具体的イメージはなかった。「でも、転職や新しい仕事の受注などでは、より自分の好きなほうを選ぶようにしてきました。そうしているうちに、目指すところへ

たどり着いていたんですよ(笑)」。4プラ退後はフリーランスとあってさまざまな経験を積み、豊かな人脈を培った。そして、8年前に赤い実企画を立ち上げ、翌年自前のフリースペースの「レッドベリースタジオ」を持ったとき、「空間をコーディネートして、そこを利用する表現者たちと一緒に仕事をしていくことがやりたいことだったんだ」と実感した。そこへたどり着くまでのヒントは、これまでに知り合った人たちが与えてくれた。仕事の話だけでなく、さまざまな情報も運んでく

る。飯塚さんの頭の中の引き出しはほとんど充実していった。「人とのつながりが財産」と飯塚さんは言い切る。
長く続けていけるように 経営的な安定にも目を
劇場やコンサート会場、ギャラリーなど多様に使われている「レッドベリースタジオ」には、さまざまな人たちが集う。近所に住むシニア男性がつづった琴似八軒の歴史物語と、長年の友人だった演出家とを飯塚さんがつなぎ、一昨年にオリジナル演劇「百理渡来記すえ語り」が誕生した。昨春にピアノを設置してからは音楽関係のネットワークもできた。
昨年末に料金体系を見直した。電気料もメーターで換算し徴収する。「もうからなくてもいいけど、経済的に安定しないことには、事業を続けていけませんからね」。料金改定はどっしりと腰を据えてスタジオを運営していくという宣言のようでもある。
継続して人が集う場を持つパワー。それが、ユニークなアートやいきいきとした文化活動を生み出し、赤い実企画の仕事の幅を広げている。

飯塚さんのこれまで道のり

23歳

ラジオ局、広告代理店、デザインプロダクションで働く

大学を卒業し、1年ほど大学の研究室に在籍した後、放送業界でアルバイト。仕事で書いてきたスク립トを実績として、広告業界へ転職。

28歳

4丁目プラザ企画宣伝部へ転職

7階「4プラホール」の企画運営を担当。仕事とは別に、フリースペース「駅裏8号倉庫」の運営に、32歳から約5年間携わる。

37歳

フリーランスになる

企画や原稿執筆のほかラジオ番組も制作。

41歳

市民運動団体の事務局を担当

演劇専用劇場の建設運動に携わる。

50歳

個人事務所・赤い実企画を設立

事務局をしていた団体が財団になったのを契機に、再びフリーランスに。翌年、事務所敷地に「レッドベリースタジオ」を開設。

【読者世代にメッセージ】

アンテナがとらえたことに熱中してしましましょう。きっと「次」が見えてきます

今すぐにお金を得る必要がある方は別にしておいて、なにかしらやりがいを持って働きたいという方の仕事探しなら、趣味の分野から追ってみるのもありだと思います。興味のアンテナを敏感にして、そこにひっかかってきたことに能動的に関わってみましょう。熱中してのめり込んでみれば、その次に進むべき方向が見えてきたりするんです。ひと山越えると次の展望が開ける感覚ですね。山の向こうに見えるもののひとつが仕事だったり、山越えの途中で出会った人が仕事の芽を教えしてくれるかもしれませんよ。(飯塚さん談)

赤い実企画

札幌市西区八軒2条西1丁目1-26
☎011-633-2535
http://www.akai-mi.com

事業内容/レッドベリースタジオ経営、芸術文化事業・ワークショップなどの企画・コーディネート、地域文化・演劇・アートに関するコラム執筆・編集・取材など。